

神戸市介護サービス協会だより

神戸市介護サービス協会 〒651-0086 神戸市中央区磯上通3-1-32 神戸市社会福祉協議会内
TEL 078 (271) 5326 FAX 078 (271) 5366
URL <https://www.kaigo-kobe.net>
E-mail kaigo@with-kobe.or.jp

◆ CONTENTS ◆

新理事長あいさつ	1	神戸市の介護人材確保促進事業	5
第1回全体研修会	2・3	令和2年度事業報告	6・7
第2回全体研修会のご案内	4	協会の活動状況	8
研修会開催方法について	4	介護技術講座のご案内	8
神戸市高齢者介護士認定事業	5	編集後記	8

神戸市介護サービス協会のさらなる発展に向けて

神戸市介護サービス協会
理事長 出上 俊一

このたび、前 松井理事長に代わり、理事長に就任いたしました。

平成13年9月に設立された「神戸市介護サービス協会」は、今年で20周年となります。

この間、会員7団体及び協力団体が協働し、保健・医療・福祉の連携、介護サービスの質の向上、介護保険制度に関する課題検討、介護人材の確保・育成などに取り組み、情報共有のための様式やマニュアルの作成、各種研修会を行ってまいりました。

団塊の世代が75歳になる2025年を目前に、介護の需要はますます高まっており、介護人材の確保は急務となっています。また、昨年からの新型コロナウイルス感染症拡大では、医療・介護関係者ともに大変な苦勞をされています。

このような状況の中、介護保険制度が継続的かつ円滑に運営され、利用者にとって有意義な制度となるよう、私たちは質の高いサービスの安定的な提供に努めていく必要があります。そのために、保健・医療・福祉の各分野にまたがる総合的な取り組みを重ね、今後の介護保険制度の発展に尽力していきたく思います。

今後とも皆さまからのご支援、ご協力をいただきながら、この協会を発展させていきたいと考えておりますので、ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



<神戸市介護サービス協会 会員団体>

一般社団法人神戸市老人福祉施設連盟
公益社団法人神戸市民間病院協会
一般社団法人神戸市医師会
一般社団法人神戸市薬剤師会

一般社団法人神戸市介護老人保健施設協会
神戸市シルバーサービス事業者連絡会
公益社団法人神戸市歯科医師会

<協力団体>

一般社団法人兵庫県訪問看護ステーション連絡協議会 神戸ブロック
一般社団法人神戸市ケアマネジャー連絡会
神戸市リハ職種地域支援協議会

公益社団法人兵庫県栄養士会

令和3年度第1回研修会を開催しました

令和3年9月18日に、令和3年度第1回研修会をオンラインで開催しました。

当初、講師の(株)高齢者住宅新聞社 代表取締役社長 網谷 敏数 氏には、来会いただき、参加者と対面でご講演いただく予定でしたが、緊急事態宣言発令により、急遽、東京からのオンライン配信に変更しました。「介護業界の最新動向～アフターコロナの経営戦略～」と題して、詳しい資料を用いてご講演いただきました。講演の要約は以下のとおりです（文責：事務局）

講演「介護業界の最新動向～アフターコロナの経営戦略～」

講師：(株)高齢者住宅新聞社 代表取締役社長 網谷 敏数 氏

令和3年度介護報酬改定の概要

1. 感染症や災害への対応力強化
2. 地域包括ケアシステムの推進
3. 自立支援・重度化防止の取組の推進
4. 介護人材の確保・介護現場の革新
5. 制度の安定性・持続可能性の確保

1. 感染症や災害への対応力強化

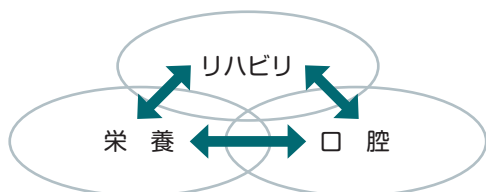
- ◆これまでの高齢者施設におけるクラスター発件数=1802件
 - ・施設では2021年4月～5月がピークで、その後落ち着いている。
 - ・利用者に感染者、感染疑いの方はいなかった事業所=7割
 - ・海外では、コロナによる死亡者の半数以上が高齢者施設で亡くなっている国が多いが、日本では2割に満たない。
- ◆介護事業者へのコロナの影響
 - 2020年3～5月期 事業収益の前年比:横ばい=47.5%
減少=35.2%
 - 通所サービスは利用控えがあったため影響が大きかった。
 - ・コロナによる離職者:特に増えたという状況はまだ少ない。
 - ・感染症対策方針の策定:コロナ前から策定していた=49.9%
これを機に策定した=25.1%

2. 地域包括ケアシステムの推進

- ◆看取りへの対応の充実
 - ・介護保険3施設及び、居住型施設ともに死亡退去が多い。
※老健は在宅復帰、医療機関への入院が多い
 - ・住宅型有料、サ高住でも死亡による契約終了が増えている。
=看取りケアができる体制が求められる。
 - ・介護付き有料よりも住宅型有料の入居の方が、平均要介護度が高い。=中重度を対象にした住宅型有料が増えている。
 - ・癌末期のホスピスタイプやALS対応等のコンセプト型の住宅型有料、サ高住が増えてきている。
 - ・看護小規模多機能型居宅介護、小規模多機能型居宅介護も看取りに関わるケースが増えてきている。
 - ・看護小規模多機能型居宅介護利用者の死亡場所の62.8%が「事業所内」。

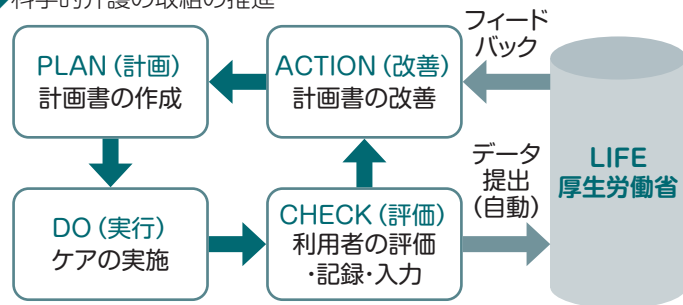
3. 自立支援・重度化防止の取組の推進

- ◆自立支援・重度化防止=多職種連携の強化



- ・リハビリ、栄養、口腔の取組を一体となって運用することにより、自立支援・重度化予防につながる。

科学的介護の取組の推進



- ・利用者のデータをとる→厚生労働省のLIFEデータに提出→フィードバックが返ってくる→現場でPDCAを回していく
◎きちんとアウトカム評価をしながら運営していく必要がある。
- ◆現場で収集したデータを入力するデータベース
 - ・VISIT (2017～)とCHASE (2021～)を一体的に運用=LIFE
 - ・データ提出:介護請求ソフトと連動している。
 - ・情報の提出頻度:3ヶ月に1回、6ヶ月ごと等様々。
※終了月にもデータ提出が必要なものもあるので要注意!
- ◆合計21種類のLIFE関連加算が設けられた。
- ◆加算は施設・事業所単位とサービス単位の2階建て。
例:全ての加算を取った場合 老健=約1000単位/1か月
通所介護=約300単位/1か月
特定施設=約100単位/1か月
- ・利用者の同意がない場合、その利用者から加算は取れない。
- ◎訪問介護・訪問看護はLIFE加算に組み込まれていないが、次の改定では訪問型サービスも含まれるのではないかと?
- ◆フィードバック票
 - ①事業所フィードバック票 ②利用者フィードバック票
 - ・栄養状態、認知機能、口腔機能、服薬状態等について、全国データと自施設・利用者データの推移の比較ができる。
→どう読み取って、どう活用するのか?
- ◆介護サービスの質の評価に関する調査研究
 - ・CHASEシステムへの入力作業の負担感が大きい=90%
 - ・利用者に関するデータ分析を実施していない(2年以内)=73%
 - ・フィードバック票について「改善されれば活用できる」が最多
- ◎フィードバックが充実して、データ入力の作業に慣れてくれば、効果も上がってくるだろう。
- ◆自立支援加算(施設系)の算定について
 - ・個人の習慣や希望を尊重しなければいけない。
 - ・プライバシーの尊重や個人の尊厳の保持について細かく謳われている。
 - ・寝たきりによる廃用性機能障害を防ぐため、離床時間を一定程度確保しなければいけない。

4. 介護人材の確保・介護現場の革新

◆夜勤職員配置加算の見直し

- 0.9人配置要件の緩和：見守り機器の導入割合15%→10%
- 新設要件:ユニット型の場合、全入所者に対して見守り機器を設置した場合0.6人の配置

◎職員配置の緩和によってサービスに影響はないのか?

◆介護職員の必要数の推計

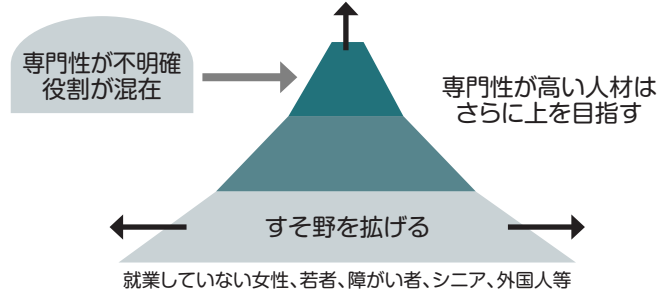
2025年の時点で32万人、2040年には69万人足りない。

◆介護事業所の人材の不足感 (R3.8介護労働安定センターまとめ)

- 事業所全体では、2年連続で改善傾向。
- 介護職員全体で見ると不足感が和らいできているが、訪問介護員の不足感は高止まりしている。
- 離職率:10年前は20%以上→14.9%と改善している。
- 訪問介護員の離職率は高いが、介護職員は離職率が下がって、採用率が上がっている。
- 若年者、勤続年数が短い人ほど離職率が高い。3年未満の離職者が全体の約6割。

◆介護人材確保の目指す姿

「まんじゅう型」から「富士山型」へ



◆20年後の生産年齢人口:1,000万人減少

医療福祉人材:1,060万人必要(就業者に占める割合は上昇する)

◎いかにして、その人材を確保するのか?

- 元気なシニアを組み込んだ生産年齢人口の考え方への転換
- ICTやロボットなどによる現場改革→人材不足を補う

◆人材確保の例

- ①在籍型出向:出向元企業と出向先企業との契約により、労働者が一定期間継続して出向先で勤務する。コロナにより仕事が減った企業、増えた企業を結びつけるサービス。制度開始から2ヶ月で、1700人余りが利用している。(2021.4.29時点)
- ②介護特化のワークシェア:在籍型出向の民間版サービス
- ③専門職のワークシェア:介護の専門職が介護事業者の仕事を探せるマッチングプラットフォーム。例えば短時間だけ等のギグワーク。何回か働きながら、正社員への登用もある。
- ④非専門職のワークシェア:介護現場の掃除や食事の配膳、レクリエーションの企画等、専門知識や経験がなくても勤務可能。
- ⑤アクティブシニアのワークシェア:地域のアクティブシニアの力を活かして人材不足を解決するサービス。

◎業務分析した上でコアな業務は専門職に、間接業務はテクノロジーに置き換える、もしくはアウトソースする。

5. 制度の安定性・持続可能性の確保

◆評価の適正化・重点化:サ高住に対する指導の強化

- 不適切なサービス、過剰なサービスを提供している事業所がある→都道府県と特別実施指導チームが当該サ高住に対して指導を行う(補助事業)

- 高齢者住宅協会による調査結果では、全体としては、在宅独居の方のサービス量と、サ高住に住んでいる方のサービス量に大きな差はない。=事業者ごとに見る必要がある。

介護保険制度の現状の問題点

介護保険制度があるのは、日本、ドイツ、韓国

	日本	ドイツ	韓国
被保険者	40歳以上	20歳以上	20歳以上
給付対象	65歳以上 ※40歳以上	0歳から全て	65歳以上 ※20歳以上
要介護区分	軽度～7段階	中度～3段階	中度～5段階
総費用に占める利用者負担の比率	7.1%	30.4%	17.8%

※所定の理由で要介護状態となった者

◎日本は軽度者にも給付している利用者負担分が低い。

- 軽度者を介護保険制度から切り離していく議論がされているが、被保険者と受給者範囲の再検討も必要。

◆2025年の社会保障給付費推計

2012年推計:医療54兆円 介護20兆円 子ども・子育て5.6兆円

2018年推計:医療47兆円 介護15兆円 子ども・子育て10兆円

- 医療=地域医療構想、改革による病床削減により減っている。
- 介護=軽度者改革、要支援の切り離しにより減っている。

◎コロナの影響で去年は医療費が1兆円減った。新たな集計を出して、医療費、介護費の推移を見直した方がよいのでは?

◆今後の見通し

- 介護サービスが必要になってくる75歳、80歳以上の人口構成を見ていく必要がある。→2040年以降も増えてく。
- 認知症の方(MCI含む)の大幅な増加が予想される。
- 高齢者夫婦世帯、高齢者の単独世帯が激増する。
- 高齢化には地域差がある。急速に高齢化が進むのは都市部。

入居型の施設について

現在、介護サービスを受けている方の内、在宅の方:400万人

何らかの施設に入っている方:200万人

- 市町村が策定する介護保険事業計画の中で、今までは介護保険の施設の計画値のみで、住宅型有料やサ高住の数字は明記してこなかった。→厚労省が住宅型有料、サ高住の計画値も出すように推奨している。

◆サ高住に対する補助金

- 以前は新築を前面に出していたが、ここ数年は住宅・建物を改修してサ高住にした場合の方が補助金額は多い。
- 広めのタイプ(25㎡以上30㎡以上)の補助金が手厚い。
- 令和7年度までこの補助制度が続くことが明記された。

介護業界の再編

- 「老人福祉・介護事業の倒産件数」が年々増えている。
- 大企業が介護業界に参入:「SOMPOホールディングス」が「ワタミの介護」と「メッセージ」を買収し、施設数で全国1位。
- 同業社同士で介護会社を買収するというケース。
- 投資会社による株式公開買い付けが増えている。世界中で収益を得る中、日本の介護に着目し、買収に至った。

今は、介護業界の中で人材がぐるぐる回っている状態。業界の外から見ても魅力あるものとして見せていく必要がある。業界最大手のSOMPOが「介護プライド」というのを打ち出して取り組んでいるが、良い取り組みだと思う。コロナで職を失った人が入ってきて、働いてみて、将来性がある、魅力があるということを感じさせるような業界じゃないといけない。

WEBセミナー 令和3年度 第2回全体研修会のご案内

科学的介護情報システム（LIFE）の活用について

日 時：令和3年12月3日(金) 14:00～16:30

内 容：講演1「科学的介護を現場で実現する方法」

講師：介護福祉ジャーナリスト 田中 元氏

講演2「科学的介護情報システム(LIFE)関連加算の算定について」

講師：神戸市福祉局 介護保険課・監査指導部

開催方法：Zoomによるオンライン開催

オンラインによる受講が困難な方には、講演を視聴する会場も設置します。

オンライン定員：500名 来場定員：40名(先着順)

申込方法：協会ホームページ上の申込フォームからお申込みください。

参加費
無料

協会主催の研修会 開催方法について

協会では、昨年より新型コロナウイルス感染症対策として、人が集まる機会を減らすために、研修会の内容に応じてオンライン研修を実施しています。

今後、イベント等の自粛が解除された場合においても、オンライン研修のメリットはあると思われます。

普段なかなか神戸までお越しただけでない講師にリモートでご講演いただくことも可能になり、参加者にとっても研修会場への移動の時間・費用が不要になります。また、現在、実施しているオンラインセミナーシリーズでは、リアルタイム配信後に講演内容をYouTubeで限定配信していますので、研修会の時間帯に都合が悪い方でもYouTubeで受講することが可能です。その反面、集合型で行う研修会は、直接講師への質問もしやすく、グループワーク等もスムーズに行え、参加者同士の交流も可能です。

協会としては、今後、感染症の状況にかかわらず、研修内容、対象者等を考慮して、オンライン研修と集合型研修を使い分けて実施していく予定です。

令和3年度 今後の研修予定	第4回オンラインセミナーシリーズ（3回シリーズ）	11/10、11/25、12/9
	第5回オンラインセミナーシリーズ（3回シリーズ）	1月～2月頃
	口腔ケア研修会	2月頃
	第3回全体研修会	3月頃

LINE
公式アカウント

登録してね！

協会では、研修会の開催案内や、皆様の役に立つ情報をお届けするためにLINE公式アカウントを開設し、メールマガジンの発行をしています。

LINEの友だち追加、メールマガジンの読者登録は下の二次元バーコードを読み込むか、協会ホームページの右下のアイコンをクリックして登録してください。

LINE
の友だち
追加は
こちらメールマガジンの
読者登録はこちら

読み込んだアドレス宛に空メールをお送りください。
送信できない場合は件名に「メルマガ」と入れて送信してください。



令和3年度 神戸市高齢者介護士講習会及び認定試験を実施しました

今年度の神戸市高齢者介護士講習会を、7月3日～8月21日の間に4回開催し、認定試験を9月26日に実施しました。

講習会初日は新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置実施期間中となりましたが、昨年に引き続き感染防止対策に万全を期して実施いたしました。また、今年度は、1日7時間の講義を4日間開催するうち、2日をオンライン講習としました。4日目は集合型の予定でしたが、緊急事態宣言発令により、急遽オンライン講習に切り替え、グループワークもオンラインで行いました。受講者もパソコンのカメラで受講中の様子を映しながらの長時間の受講に疲れたと思います。講師もモニターに映し出される受講者の様子を確認しながら講義を進めるという初めての試みでしたが、無事に講習会を終了しました。

講習会は63名が受講され、認定試験には57名が受験されました。

認定試験合格者の内、所定の要件に該当する方は、神戸市のキャリアアップ支援金の支給対象となります。(下記参照)

昨年度に引き続き、今年度も会場で神戸市福祉局長より直接、認定証を授与される授与式は開催できません。対象者の認定証は、各所属先へお送りさせていただく予定ですので、施設・事業所内において、認定者を称える授与式を開催していただきますようお願いいたします。

協会では、介護職員の意欲向上と社会的評価の向上のためにも、今後も制度を継続していく予定です。



リモートで受講者の様子を確認しながら、講義する講師

《 神戸市の介護人材確保促進事業 》

詳細は神戸市
ホームページを
ご確認ください

◎神戸市高齢者介護士認定制度合格者に対するキャリアアップ支援金

神戸市高齢者介護士認定制度合格者に対し、介護福祉士国家資格の取得を支援するため「キャリアアップ支援金」を交付します。

支給対象者：神戸市高齢者介護士認定制度合格者で、次のいずれにも該当するもの。

- ①介護福祉士国家試験に合格していない者で、かつ認定制度合格年度の11月から5年以内の者。
- ②認定制度合格時に在籍していた法人に継続して在籍し、かつ市内の事業所に在籍していること。
- ③交付年度末に在籍していること。

支 給 額：月額 10,000 円

◎神戸市高齢者介護士認定制度受講支援事業

介護保険施設・介護サービス事業所の職員が神戸市高齢者介護士認定制度を受講する際に必要となる、代替職員の確保にかかる経費を補助します。

◎神戸市新規採用介護職員に関する住宅手当等補助

介護保険施設・介護サービス事業所の人材確保支援として、事業所所在地の区外から新たに正規の介護職員を採用した際に、事業所運営法人に対して住宅手当支給額等の一部を補助します。

補助対象介護職員

平成31年4月1日以降に新たに法人に採用された、神戸市内の事業所に勤務する介護職員であって、次のいずれにも該当するもの。

- 1) 雇用された日から3年以内であること
- 2) 正規職員であること
- 3) 雇用日から3ヵ月以前の住所が、事業所の所在する行政区以外であること



1. 組織運営

(1) 理事会の開催 (2回)

令和元年度の事業報告・決算報告のほか、令和2年度の協会活動を進める上での方針等を確認しました。(第1回)

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症対策の取り組みの他、介護人材の確保・育成、環境改善への取り組み、関係者間の連携を図るうえでの課題への取り組み、介護サービスの質の向上に資するための取り組み、介護保険制度に関する課題への取り組み等を行うことを確認しました。(第2回)

(2) 運営委員会の開催 (隔月毎 4回 4月、8月は未開催)

理事会で確認された事業方針・事業計画に則り、運営委員会で協会事業全般についての協議を行い、事業具体化のための検討、各部会間の調整を行いました。

- ◆ 神戸市に対する意見・要望を集め「神戸市への介護保険制度等に関する要望」として7月に神戸市宛提出し、第1回神戸市との意見交換会において協会からの意見を述べ、第2回神戸市との意見交換会において神戸市からの回答を得るとともに、それぞれ意見交換を行いました。
- ◆ 福祉系専門学校等と合同で、介護の仕事の意義・重要性・魅力を発信する冊子、動画を作成し、学生及び求職者が相談に訪れる機関を中心に配布しました。
- ◆ 神戸市内の、施設系、通所系、訪問系、居宅介護支援事業所を対象に、事業所が直面している課題等を探り、今後の対策を検討するため、新型コロナウイルス感染防止対応に関するアンケートを実施しました。
- ◆ 次々と新しい情報が出てくる新型コロナウイルス感染症について、情報を共有するとともに、正しい対応方法を専門家より学ぶための研修会を実施しました。感染拡大防止の観点から、会議及び研修会をオンラインで実施する等の工夫を行いました。

(3) 神戸市との意見交換会の開催 (2回 8月、2月)

「神戸市への介護保険制度等に関する要望」を神戸市の次年度計画に反映していただくため、年度前半に協会からの意見・要望を述べる場として、年度後半に神戸市からの回答を得る場として、神戸市との意見交換会を開催し、意見交換を行いました。

(4) 部会の開催 (隔月毎)

運営委員会で協議された事業を具体化するために、「居宅介護支援サービス部会」「在宅サービス部会」「施設サービス部会」の3部会を開催し、各部会で事業内容の検討を行いました。

居宅介護支援サービス部会 (5回 5月は未開催)

- ◆ コロナ禍で医療機関への立ち入りや面会が制限される中、カンファレンスや担当者会議の実施方法について情報交換を行いました。

在宅サービス部会 (5回 5月は未開催)

- ◆ 感染症発生や災害時によりサービスを提供できなくなった場合、事業所間で連携して代替サービスを提供するシステムについて、検討を始めました。

施設サービス部会 (5回 5月は未開催)

- ◆ 各施設・法人等で行っている介護人材の離職防止に向けた取り組みについて、調査・分析するための検討を行いました。

(5) 新型コロナウイルス感染防止対応会議 (1回)

新型コロナウイルス感染症の急拡大に伴い、介護サービス事業者も混乱をきたしながらも、要介護者への日々の対応が必要だったため、緊急で会議を開催し、当面の対応について、関係者間での情報共有を行いました。

2. 協作成マニュアル等の販売

協会で作成した介護ノートやマニュアル類を、申し出のあった希望者に対して及び、研修会場において販売しました。

- ◆ 介護ノート
- ◆ 在宅介護における事故・クレーム対応事例集
- ◆ 在宅介護における感染予防マニュアル
- ◆ 疾患別高齢者介護のポイント
- ◆ ホームヘルパーきほんのき

3. 介護保険に関する情報の提供

最新の介護保険情報及び保健・医療・福祉に関する情報、協会事業の案内・報告など、会員に対して情報提供を行いました。

- ◆ 協会ホームページのセキュリティ強化と、スマートフォン等に対応したレスポンス Web デザインとするため、ホームページ改訂を行い、介護保険等に関する最新情報の提供、各種研修会等の情報発信等、会員及び広く一般の人に対して情報提供に努めました。

- ◆「協会だより」を発行し、協会事業の取り組み状況、研修会の報告、介護関連職種の紹介等の情報提供を行いました。(3回発行)
- ◆介護保険等に関する最新情報の提供、各種研修会等の情報を発信するために開設したホームページを通じて、会員に対する情報提供に努めました。(HP アドレス <https://www.kaigo-kobe.net>)

4. 各種研修会の開催

介護サービスの全般的な質の向上を図るため、全会員事業者を対象とする研修会を年間3回開催するとともに、より質の高い介護サービスを提供していくため、特定職種を対象とした研修会や、特定の分野に特化した内容の研修会を開催しました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、集合型研修においては3密の回避を行うとともに、オンラインを活用した研修も実施しました。

(1) 全体研修会の開催

① 第1回研修会 ※オンラインセミナー

- ◆日時 令和2年10月24日(土) 午後2時～3時40分
- ◆内容 講演「新型コロナウイルス感染症について～介護現場における対応～」
講師：神戸大学医学部附属病院 感染制御部 特命教授 宮良 高維 氏

② 第2回研修会

- ◆日時 令和3年3月18日(水) 午後2時～4時30分
- ◆内容 報告「新型コロナウイルス感染症対応・神戸市の取り組み」
講師：神戸市介護保険課介護予防推進担当・保健所兼務(保健師) 係長 太田 亜紀 氏
講演「新型コロナウイルス感染症発生時の対応について～その時、何が起きていたのか?～」
講師：介護老人保健施設グリーンアルス伊丹 事務長 塩田 眞一郎 氏

(2) その他の研修会

① サービス提供責任者研修会(神戸市シルバーサービス事業者連絡会との共催)

- ◆日時 令和2年6月24日(水)～令和2年8月24日(月)の毎月1回開催(午後1時30分～4時40分)
- ◆内容 講義とグループワーク：サービス提供責任者の役割、対人折衝能力の向上等

② 口腔ケア研修会(神戸市シルバーサービス事業者連絡会との共催) ※オンラインセミナー

- ◆日時 令和3年3月9日(火)(午後2時～3時)
- ◆内容 講演「在宅介護における口腔ケア・訪問歯科診療」
講師：神戸市歯科医師会 理事・本庄歯科クリニック 院長 本庄 健一 氏

③ 介護現場で知っておきたい医学知識研修会 ※オンラインセミナー

- ◆期日 令和2年10月8日(木)～令和3年1月21日(木)の毎月1回開催
1科目1時間×7科目(リアルタイム配信&録画配信の2回視聴可能)
- ◆内容 講義：介護従事者が知っておくべき医学知識について合計7項目 ※選択受講

5. 神戸市高齢者介護士認定事業の実施

令和2年度の神戸市高齢者介護士認定にむけた講習会を開催するとともに、認定試験を実施しました。新型コロナウイルス感染症の影響で講習会を欠席した受講者のために、WEB上で受講できるよう配慮しました。

例年開催している「認定証授与式」については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催せず、認定証を郵送するとともに、認定者・合格者の感想を聞くためアンケートを実施しました。

また、高齢者介護士委員会・実務者会において、事業内容の確認、カリキュラムの検討等を行いました。

令和2年度より神戸市にて新設された、神戸市高齢者介護士認定制度合格者に対するキャリアアップ支援金の周知に協力しました。

(1) 高齢者介護士委員会の開催(3回)

- ◆令和2年度認定試験問題承認。合否判定、神戸市への推薦について。次年度の事業について。

(2) 高齢者介護士実務者会の開催(3回)

- ◆カリキュラム内容調整。認定試験問題作成。認定試験の採点。

(3) 神戸市高齢者介護士講習会及び認定試験

- ◆講習会 日時：令和2年8月7日(金)～令和2年9月25日(金) 全4回開催(午前9時15分～午後5時)
- ◆認定試験 日時：令和2年10月11日(日) 午前10時～午後4時15分

協会の活動状況

◆ 4月から9月までの動き

令和3年		
4月	8日	令和3年度第1回運営委員会
5月	10日	令和3年度第1回在宅サービス部会
	13日	令和3年度第1回居宅介護支援サービス部会 令和3年度第1回施設サービス部会
6月	3日	令和3年度第2回運営委員会
	10日	令和3年度第2回神戸市高齢者介護士実務者会
	24日	第1回オンラインセミナーシリーズ 講義1 (参加・視聴回数 137回)
7月	3日	神戸市高齢者介護士講習会 1日目 (参加者 63名)
	7日	第1回オンラインセミナーシリーズ 講義2 (参加・視聴回数 126回)
	8日	令和3年度第2回居宅介護支援サービス部会 令和3年度第2回施設サービス部会
	12日	令和3年度第2回在宅サービス部会
	16日	神戸市高齢者介護士講習会 2日目 (参加者 62名)
	17日	令和3年度第1回理事会
	26日	第1回オンラインセミナーシリーズ 講義3 (参加・視聴回数 95回)
8月	3日	神戸市高齢者介護士講習会 3日目 (参加者 62名)
	5日	令和3年度第1回神戸市との意見交換会
	6日	第2回オンラインセミナーシリーズ 講義1 (参加・視聴回数 65回)
	21日	神戸市高齢者介護士講習会 4日目 (参加者 61名) 令和3年度第3回神戸市高齢者介護士実務者会
	24日	第2回オンラインセミナーシリーズ 講義2 (参加・視聴回数 81回)

9月	3日	第2回オンラインセミナーシリーズ 講義3 (参加・視聴回数 86回)
	9日	令和3年度第3回居宅介護支援サービス部会 令和3年度第3回施設サービス部会
	13日	令和3年度第3回在宅サービス部会
	15日	令和3年度第1回神戸市高齢者介護士委員会
	18日	令和3年度第1回研修会 (参加者 41名)
	26日	令和3年度神戸市高齢者介護士認定試験 (受験者 57名)
	27日	サービス提供責任者研修会 1日目 (参加者 36名)
	30日	第3回オンラインセミナーシリーズ 講義1 (参加・視聴回数 105回)
10月	7日	令和3年度第3回運営委員会
	15日	第3回オンラインセミナーシリーズ 講義2 (参加・視聴回数 83回)
	18日	令和3年度第4回神戸市高齢者介護士実務者会
	25日	サービス提供責任者研修会 2日目 (参加者 36名)
	27日	第3回オンラインセミナーシリーズ 講義3 (参加・視聴回数 70回)

◆ 今後の予定(期日確定分のみ)

11月	8日	令和3年度第4回在宅サービス部会
	9日	令和3年度第2回神戸市高齢者介護士委員会
	10日	第4回オンラインセミナーシリーズ 講義1
	11日	令和3年度第4回居宅介護支援サービス部会 令和3年度第4回施設サービス部会
	18日	サービス提供責任者研修会 3日目
	25日	第4回オンラインセミナーシリーズ 講義2

◀市民福祉大学 介護技術講座▶

持ち上げない! 介護技術 ~オンライン研修~

内 容: ◆人間本来の動き ◆起立の介助 ◆座位の修正 ◆移乗介助 ◆Q&A

日 時: 令和3年12月10日(金) 14:00~17:00

講 師: 一般社団法人幸せ介護創造ファクトリー 代表理事 高山 彰彦 氏

対 象: 神戸市内の社会福祉施設において介護を主たる業務としている職員

受 講 料: 3,000円

定 員: 40名(申込多数の場合は抽選)

申込方法: 市民福祉大学ホームページよりお申込み(<https://www.shiminfukushidaigaku.jp/>)

締 切: 令和3年11月19日(金)

お申し込み・お問合せ先: 社会福祉法人神戸市社会福祉協議会 市民福祉大学

〒651-0086 神戸市中央区磯上通3丁目1-32

TEL(078)271-5300-FAX(078)271-5365

介護ロボットも
リフトも使わない!



ホームページ

編集後記

緊急事態宣言も解除になり、街の人通りも多くなってきました。飲食店で働く人のことを思えば、外食もありかもしれません。とはいえ、私はコロナ前からほとんど外食はしない派でした。コロナ禍で料理をする人も増えたそうで、ネットには毎日たくさんのレシピがアップされています。「時短」「手抜き」などのワードとともに冷蔵庫にある食材で検索すると、簡単に作れる料理がいっぱい出てきます。電気、ガス料金が値上げされ、食品の価格もジリジリと上がってきています。節約のために食材を使い切ることが、持続可能な社会(人間・社会・地球環境の持続可能な発展)の実現にもつながっていくと思います。(か)